



ホテルベルエア「Hotel Bel-Air」の開業は1947年。もともとロマンチックな“天国のホテル”と称され、世界中のVIPを迎え入れてきた。ホテル関係者が注目する有名な金融専門誌「Institutional Investor」のホテルランキングで、ホテルベルエアは1980-90年代には世界を代表するホテルの中で、常に上位に名を連ねた伝説的ホテルであった



広大な森の庭園にあるスイミングプールや白鳥が泳ぐ池は、ほぼ昔のままの姿で保存され、思わずほっと癒される場所だ。下界とは一線を画した別天地の幻想世界が広がり、そこにホテルベルエア「Hotel Bel-Air」が優雅に行んでいる



筆者 小原 康裕
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRC A、日本ホテルレストランコンサルタント
協会理事。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

現在、筆者のホームページで
「世界のリーディングホテル」を連載中。
多くの美しい写真と興味深いコメントで、
世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。



正面車寄せからベルキャブテンに案内され、長いアプローチを進む。周囲は樹木が自生する森が続き、その美しさに気持ちも高鳴る



レセプション棟の中心にあるスタイリッシュなロビーラウンジ。ホテルベルエアの位置するロサンゼルス・ベルエア地区は、ハリウッドスターとL.A.の政財界の重鎮が豪邸を構え、ビバリーヒルズの丘陵地帯にある超高級住宅街だ



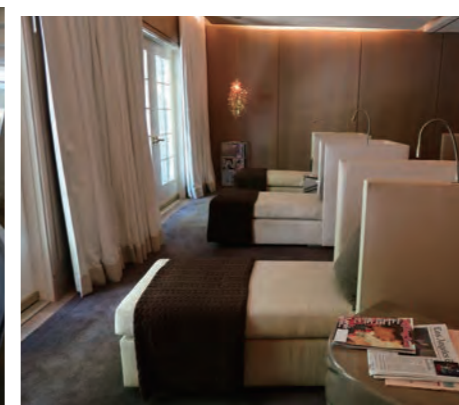
長いアプローチを進むと瀟洒なレセプション棟に着く



スパ施設「Hotel Bel-Air Spa」に向かう階段のアプローチ



スパ・スイートの気品あるトリートメントルーム



ゴージャスなリラクゼーションルーム

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

Hotel Bel-Air

ロサンゼルス・ベルエア地区はハリウッドスターとL.A.の政財界の重鎮が豪邸を構え、ビバリーヒルズの丘陵地帯にある超高級住宅街だ。ここは下界とは一線を画した別天地の幻想世界が広がっている。そんなベルエア地区に「Dorchester Collection」傘下、ビバリーヒルズホテルと姉妹ホテルのホテルベルエア「Hotel Bel-Air」が優雅



メインレストラン「Wolfgang Puck at Hotel Bel-Air」はエスプリの効いたデザインが目を引く。暖炉の焔が美しく映え、極上のダイニング空間を演出している



「Wolfgang Puck at Hotel Bel-Air」に隣接するバーカウンター



バーラウンジ「The Bar & Lounge」は、Norman Seeff 氏のアイコン的な写真が壁一面に飾られている



「Wolfgang Puck at Hotel Bel-Air」のオープンエアのテーブル席



「Wolfgang Puck at Hotel Bel-Air」の美しいガーデンセッティング



プレミアスイート「Premier Canyon Suite」のガーデンテラス。バンガロースタイルの客室は2009年から2年間の全面改装を経て、2011年10月に新生ベルエアとして誕生した



約65㎡の面積を持つ「Premier Canyon Suite」のベッドルーム。103室のうち45室がスイートという贅沢なホテルだ



美しい渓谷の眺望が楽しめるシッティングエリア



広いテラスにはカップルが楽しめる専用プールが用意されている



「Premier Canyon Suite」は、ホテル敷地の斜面に建てられたバンガロースイートだ

に佇んでいる。2009年から2年間の全面改装を経て2011年10月に新生ベルエアが誕生した。103室のうち45室がスイートのリユクスなブティックホテルだ。バンガロースタイルの客室は以前とはガラリと変わり、コンテンポラリーのスタイリッシュなデザインに生まれ変わっている。

ベルエア地区に入ると、まわりの風景がガラッと変わる。高い垣根と堂々とした門構えの向こうにセレブたちの豪邸が軒を連ねている。それぞれの邸宅の豪華さだけでなく、樹木が自生する森林の美しさも素晴らしい。ここは下界とは閉ざされた幽谷の地だけに足の便は悪いが、それが上流階級だけの排他的な社交場という雰囲気は拍車をかけている。ピバリーヒルズホテル (Vol.166 参照) に宿泊するゲストには、リムジン送迎の嬉しいサービスがあり、両方の個性あるホテルを堪能するのもお勧めである。

ホテルベルエアの開業は1947年。もっともロマンチックな“天国のホテル”と称され、世界中のVIPを迎え入れてきた。正面車寄せからベルキャプテンに案内され、長いアプローチを進むと瀟洒なレセプション棟に着く。今回は約65㎡の面積を持つ「Premier Canyon Suite」を紹介したい。敷地の斜面に建てられたゴージャスなバンガローで、専用プールと広いテラスから渓谷の眺望が楽しめる。メインダイニング「Wolfgang Puck at Hotel Bel-Air」はエスプリの効いた華麗なデザインに変更され、以前のクラシカルな趣は跡形もない。スパ施設「Hotel Bel-Air Spa」は、トリートメントルーム、リラクゼーションルームなど、気品あふれるサロンに变身した。広大な森の庭園にあるスイミングプールや優雅に白鳥が泳ぐ池は、ほぼ昔のままの姿で保存され、思わずほっと癒される場所だ。

ホテル関係者が注目する有名な金融専門誌「Institutional Investor」のホテルランキングで、ホテルベルエアは1980-90年代には世界を代表するホテルの中で、常に上位に名を連ねた伝説的ホテルであった。L.A.の上流社会を顧客に持つこのホテルはある意味、観光客が興味本位で泊まるホテルではない。ハイエンドの世界を知り尽くした大人のハイダウェイホテルと言えよう。